

**第8回北海道集落総合対策事業幌加内町（母子里地区）地域協議会
母子里地区地域づくり協議会（議事要旨）**

■開催日時

平成26年12月21日（日） 14:00～16:00

■開催場所

幌加内町母子里コミュニティセンター研修室

■出席委員等

<委員>

多田会長、橋本委員、日野委員、若山委員、渡来委員、岡本委員、小野田委員

<アドバイザー>

旭川大学短期大学部 和島助教

<幌加内町>

地域おこし協力隊 安齊隊員、高橋隊員

<事務局(北海道)>

総合政策部地域づくり支援局地域政策課 西田主幹

上川総合振興局地域政策部地域政策課 堤課長、有本係長

■開催概要

1 挨拶

西田主幹：それでは、今年度3回目、通算で8回目となる母子里地区地域づくり協議会を開催する。前回の8月のときには、本年3月に取りまとめた母子里地区のめざすべき将来の姿や、今後の取組の方向性を踏まえて、国の交付金を活用してどのように取組を進めていくかということについて意見交換をしていただいた。本日の会議では、前回の会議や、その後、地域でのさまざまな協議を重ねた結果、4つの柱である高齢者の支援、地域交流のイベント、地域資源の発掘と活用、そして地域コミュニティの活性化にどのように取り組んでこられたかということをお報告いただき、その上で、年度末に向けてさらにどう取り組んで行くのかということを中心にご議論いただきたいと思います。この後の進行は、多田会長にお願いする。

多田会長：本日は年末のご多忙の中お集まりいただき、心より感謝申し上げます。天候がかなり悪化しており、会議をできるだけ早めに切り上げたいので、スムーズな議事の進行にご協力をお願いしたい。また、会議終了後には、本日も越しいただいている旭川短大の和島先生にお願いしていた、地域資源の発掘とその活用方法の関連で、母子里で採れた山菜などを使った料理の試作品をお持ちいただいたので、本日も集まりの皆様に試食をお願いしたいと考えているので、よろしく願います。

2 議事

(1) 平成26年度の取組について

① 地域資源の発掘と活用

多田会長：それでは、早速、議事に入らせていただく。最初に旭川短大の和島先生より、地域資源の発掘と活用に関する取組状況について報告をお願いしたいが、報告をいただく前に、私のほうから、これまでの流れなどについて若干ご説明させていただく。地域資源の発掘と活用に取り組むに当たって、山菜など資源の分布状況に関する事前調査や、地域おこし協力隊員の体カトレーニングを兼ねた行者ニンニクの自生地などでの笹刈りを実施したほか、舞茸を採取し全戸配付を実施している。また、秋に採取しておいた笹を使った笹の葉茶の研究や、秋のワカサギ漁の際には、地域おこし協力隊員への漁業研修など、これまでの間に様々な取組を実施してきている。一方で、旭川短大の和島先生に、母子里で採れる山菜などを使った山菜料理のレシピ開発をお願いしている。本日は、これまでの研究成果などについてご報告をいただくこととなっているので、どうぞよろしく願います。

※和島助教より資料1に沿って説明

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今、和島先生から説明のあった山菜料理のレシピ開発に関して、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。私から1点お聞きするが、調理器具の「ミルサー」はかなり使い勝手がよいように思う。かなり細かい粒子状の粉末化が可能で、金額的にも手頃である。

和島助教：野菜などのほか、大豆や米など堅いものでも粉末状に加工できるので、非常に使い勝手がよい。なお、今回ご紹介させていただいたレシピは、コンテナハウスでの飲食物の提供を念頭におき、あまり手間がかからず、比較的調理が簡単なものとなっている。

多田会長：今後、地域カフェなどで飲食物を提供しようとする際に、試作品を作るなどちょっとした加工を施す場合などに活用できる。こうした調理器具があると非常に便利であるように思う。この地域資源の発掘と活用に関する今後の取組についてであるが、現在考えている案としては、今回、和島先生にご提案いただいた山菜料理レシピを使って旭川大学の学生を交えた試食会の開催を考えている。可能であれば、天使の囁きなどのイベント開催時に合わせて実施し、多くの方に試食いただくことで相乗効果が期待できるように思うがどうか。また、併せて、山菜の加工・販売に向けて具体的な検討に入っていきたいと考えている。

② 高齢者支援事業

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。小野田委員より、高齢者支援事業について報告をお願いしたい。

※小野田委員より報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今、小野田委員から説明のあった高齢者支援事業の高齢者無償送迎実証運行に関して、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。

渡来委員：町外送迎の利用は、あくまでも買い物支援に限定されているのか。例えば、通院などにも利用できるのか。

小野田委員：町外への送迎はあくまでも買い物支援に限定している。通院など個人的な送迎となれば利用頻度など公平性を欠くことになるため、あらかじめ除外させていただいた。ただし、車を持たない高齢者などの母子里診療所への通院や老人クラブの定例会など、町内送迎として利用することは可能である。

若山委員：町外買い物支援であるが、行きたい店舗を限定できるなど、どの程度の融通がきくのか。

小野田委員：利用時間内であれば、利用される方の了解のもと、複数店舗で買い物して差し支えないものと考えている。

橋本委員：利用を希望する方の申し込みは、IP告知端末器を利用して直接連絡すればよいのか。

小野田委員：地域おこし協力隊員が詰めているコミュニティセンター内にあるIP告知端末器に電話していただければよい。その旨、地区住民にチラシなどで周知する予定である。

多田会長：地域おこし協力隊員が不在の場合の対応をどうするか。今後の取組の進み具合によっては、コミュニティセンターを離れて活動する機会が増えてくることも想定される場所。

岡本委員：IP告知端末器に留守番電話機能は付いていないが、着信履歴は残るので、それを活用して、改めて連絡を取ることでよいのではないかと。

③ 地域交流イベント

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。若山委員より、地域交流イベントについて報告をお願いしたい。

※若山委員より報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今、若山委員から説明のあった地域交流イベントの取組に関して、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。私から1点お聞きしたい。遅くとも1月中旬にはパンフレットを作成するとのことであるが、見通しはどうか。

若山委員：プログラムの詳細までは難しいかもしれないが、イベントの大まかな内容については固めていきたいと考えている。今のところ、冬の母子里体験といったようなイベントをイメージしている。

④ 地域コミュニティの活性化

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。私のほうから、地域コミュニティの活性化の取組についてご報告させていただく。

※多田会長より報告

<意見交換>

多田会長：それでは、意見交換を進めていきたい。ただ今ご説明させていただいた内容を含め、全体を通して、ご質問やご意見などがあればお受けしたい。

若山委員：地域おこし協力隊が入ってきて4ヶ月ほどが経過し、色々と体験を積んできていると思うが、今後も継続して体験させていくのか、それとも、一つのことに集中して取り組ませるのか、どのように考えているのかお聞きしたい。

多田会長：基本的には、隊員自身の意向を尊重すべきと考えているが、私個人の考えとしては、母子里にきてまだ4ヶ月ほどであるので、少なくとも来年の3月いっぱいくらいまでは体験期間として、色々と考える時間を与えてあげたほうがよいと思う。来年3月いっばいで道のモデル事業も終了するので、地域おこし協力隊の活動を含め、現在の協議会での取組を継続するのであれば、色々と考えなければならない。

日野委員：現在取り組んでいる総務省事業「過疎集落等自立再生対策支援事業」の活用などを含め、何らかの形で地域おこし協力隊員の地域への定住に向けた支援はできないのか。

小野田委員：実際にどういう形で定住するかにもよるので、ケースバイケースであり、一概にはいえない。まずは、地域で仕事を見つけて自分で生活していく道を探してもらうことが大切であり、そのための支援として何ができるのかを考えていかなければならない。いずれにしても、周囲がどうこうするのではなく、隊員自身の意向をしっかりと聞いたうえで、その意向を最大限に尊重すべきであると考えます。

多田会長：コンテナハウスの活用についてであるが、このコンテナハウスは地域の方々の憩いの場としての活用や、地域の資源である山菜などの物販のほか、地域おこし協力隊員などが地域に定住するためのツールとして活用していただければとの考えから、本協議会で計画して取り組むこととしたところ。現在、地域おこし協力隊員が中心となり、物販とカフェの運営に取り組んでいるが、これだけで生活を成り立たせるのは難しいことから、これ以外の仕事も色々と組み合わせていく必要があり、その中のひとつにカフェの運営がある。現在の地域おこし協力隊員の任期終了後にカフェの運営の継続を希望するのであれば、引き続き彼らに任せていくことでよいと思うし、希望しないのであれば、地域でNPO法人などを立ち上げて運営していくことも考えられる。

橋本委員：カフェの運営についてであるが、地域おこし協力隊員など若い方々のために取り組むことを否定するわけではないが、やはり、昔からここに住んでいる高齢者の方々の生きがいにつながり、喜んでもらえるような取組が基本であるように思う。これらをしっかりと念頭においたうえで取り組んでいかなければ、本来の目的である地域の活性化には繋がらないのではないかと。また、先ほど、若山委員から報告のあった地域交流イベントについてであるが、この地域の特色である「寒さ」を活かした「天使の囁き」という歴史の深いイベントがある。しかしながら、人口減少や高齢化が進むにつれ、ここ数年は参加者も少なく、イベントの継続そのものが難しくなっているという状況だと聞いているので、地域で何らかの形で支援していく必要があると考えます。

小野田委員：来年2月に実施する「天使の囁き」では、旭川大学からの申し出があり、ご協力をいただきながら、実行委員会と合同での取組を検討しているところ。開催までの期間が短く、時間的な制約がある中での取組となることから、調整が難しい面もあるが、ライト点灯やそばの提供など、例年と同様の内容で実施したいと考えている。私案ではあるが、今回、本協議会での取組として、「天使の囁き」会場付近にコンテナハウスを設置しているので、来場者に暖かい飲み物を提供するなど、色々と連携して取り組んでみてもおもしろい。この件については、実行委員会で、後日改めて具体的な内容を検討したい。

若山委員：地域おこし協力隊員の任期終了後についてであるが、山菜などを地域の資源を活用したビジネスやカフェの運営、養羊など、仕事を色々と模索しているようであるが、現在の母子里地区の状況を考えた場合、例えば、養羊など就農について、実際に営んでいる農家がない母子里地区では、現実的には、かなり難しいので、地域おこし協力隊員に対して、こうした事実をはっきりと伝える必要があると考えるがどうか。専門的な知識を持たない方が就農する場合、一概にはいえないが最低でも2～3年の研修が必要であり、母子里地区に農家がないので地域の外で研修を受けるしか方法は無い。これらの状況を踏まえた場合、養羊など母子里地区での新規就農は、かなりハードルが高いように思われる。

小野田委員：隊員自身の意向をしっかりと聞いたうえで考えていくべき問題ではあるが、隊員自身が真剣に就農を考えているのであれば、我々としてもできる限りの支援をしていきたいと思っている。いずれにしても、若山委員のお話にもあったとおり、研修先の問題や、その後の支援方法など、かなりハードルの高い問題をクリアしていく必要があるので、これらについて事前にきちんと伝えておくことが大切である。

(2) その他

多田会長：それでは、次の議事に移らせていただく。平成27年度以降の取組に関して、国の交付金の状況などを含めて、西田主幹よりご発言をお願いしたい。

西田主幹：平成25年6月に本協議会を設置させていただき、これまでの間、委員の皆様による活発なご議論のもと様々な取組を実施してきたところであるが、道のモデル事業としては平成27年3月末をもって終了することとなる。しかしながら、道としても、これで終わりとせず、これまでの取組を地域にしっかりと定着させるため、モデル地区のフォローアップをしていく考えであり、現在、そのための予算も要求中である。今後も地域の方々による話し合いの場への参加や、各種のイベントへの参加など、積極的に関わらせていただきたいと考えているので、引き続きどうぞよろしく願います。さて、これらの状況を踏まえた中で、平成27年度以降の地域活動を支えていく運営組織などを考えていかなければならないが、現在の協議会に変わるものとしては、例えば、NPO法人設立といったことも考えられるが、取組内容によっては、実行委員会のような形や、あるいは、現在の協議会のままでよいといった選択肢もあるかと思うので、この辺のところも今のうちにきちんと議論しておく必要がある。いずれにしても、今後の地域活動を進めるためには、資金面についても十分に議論しておく必要があるかと思うので、現在、当方で承知している範囲内ではあるが、総務省と農林水産省で予定している集落関連事業の概要について簡単にご説明させていただく。

※西田主幹より資料2及び3に沿って説明

小野田委員：いずれにしても、平成27年度以降に取り組んでいく具体的な内容を議論することが先決である。その上で、財源手立てを考えていく流れがベターかと思う。本件については、年明けに改めて検討することによろしいのではないか。

多田会長：おわりに、私から何点か発言させていただく。先ほど、コンテナハウスでのカフェ運営に関して色々と議論のあったところであるが、この取組は、必ずしも地域おこし協力隊員のためだけに開設しているものではなく、コミュニティ活性化部会での話し合いのもと、一人暮らしのお年寄りのためにみんなで楽しむ食事の機会をより多く提供するためメニューを工夫するなど、地域住民の方々にとっても必要な取組となっているのでご理解願いたい。また、地域おこし協力隊員の平成27年度以降の活動内容についてであるが、この母子里で暮らしていくための自分の仕事を探すことが一番重要な課題であると思うので、本年度は私個人としても色々と手助けさせていただいたが、来年度以降は隊員自身がこうした課題をしっかりと念頭において、日々の活動に精励していただければと考えている。議論の尽きないところであるが、本日の会議はこれで終了する。

～ 閉 会 ～